



県内経済情勢 (令和6年10月判断)

令和6年11月7日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

照会先

千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)

ホームページ <https://lfb.mof.go.jp/kantou/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）6年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
設備投資	6年度は増加見込みとなっている	6年度は増加見込みとなっている	
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

物価上昇の影響がみられるなか、百貨店販売額は前年を下回っているものの、スーパー販売額、ドラッグストア販売額及びホームセンター販売額などは前年を上回っている。乗用車の新車登録届出数は一部メーカーの生産・出荷停止の影響が依然としてみられることから前年を下回っている。娯楽などは緩やかに回復しつつある。このように個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- お中元をはじめとするギフトの売上げが苦戦し、法人等の大口注文も減少してきている。価格高騰の影響で食品はお買い得品が人気を集めるも、アパレルのセールは売上げを押し上げるような盛り上がりにはつながらなかった。(百貨店・スーパー)
- 仕入値上昇分の価格転嫁を行っていることに加え、8月の台風接近や南海トラフ地震臨時情報発表を受けた備蓄の動きなどもあり、売上げは前年を上回っている。(百貨店・スーパー)
- 酷暑に加え台風の影響もあって厳しい季節となった。一方、コールドスイーツ、アイスクリーム類が好調に推移したほか、8月は地震情報や台風接近などを受け、水や雑貨類の備蓄可能商品が好調であった。(コンビニエンスストア)
- 必需品であっても必要な分だけを買うにとどまり「プラス一品」の需要は弱くなったと感じるが、割安感のある商品に対するニーズは依然として高く、洗剤などの日用品における大容量商品の売れ行きが良い。(ドラッグストア)
- 7月及び9月の売上げは概ね前年並みであったものの8月は防災関連商品が好調で前年比プラスとなった。(ホームセンター)
- メーカーの生産・出荷停止の影響は依然として残っており、新車販売台数の本格回復には程遠い。メーカーの生産は再開されたものの受注に追い付いていない状況であることに加えて、新型車の投入がなかったことが大きく影響している。(自動車販売)
- 円安の影響が大きいかもしれないが、海外からの顧客は引き続き増えている。(娯楽)
- 県内観光各地の客足自体は、物価上昇や受入側の人手不足のほか、屋外施設においては暑さもマイナスに影響しているものの、全体的には回復傾向が続いていると感じる。(業界団体)

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

生産を業種別にみると、化学、食料品及び鉄鋼などが増加しているものの、石油・石炭製品などが減少していることから、全体としては、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

- 電子・半導体関連や航空機向けの需要が回復してきており、溶剤や樹脂などの中間製品が全体として上向き傾向。(化学)
- 海外向けの伸びが続いているほか、国内向けも外食市場の回復や中食市場の成長等もあって伸びている。(食料品)
- インバウンド需要の急回復を背景として国際線向けジェット燃料の海外需要が増加しているが、国内の石油製品需要は前年に比べて減少している。(石油・石炭)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいとなっているものの、新規求人数は増加している。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- 少子化に伴い採用競争が年々激しくなっており、主に競争力強化のため新入・若手社員の給与水準を引き上げた。(製造業)
- 正規社員の不足感は業務効率化などもあり解消されてきたものの、非正規社員については依然として不足している。時給を高めに設定して募集しているが、より時給が高い都内へ人が取られてしまっている。(宿泊)
- 従業員総数自体は適正ではあるものの、業務に必要な資格を有する従業員が不足している。常時、募集をかけているほか、社内の縁故も募るなどして採用に努めているが、競争が激しく取り合いになっている。(建設)

■ 設備投資 「6年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期

- 製造業では前年比増減率5.5%の増加見込み、非製造業では同56.8%の増加見込みとなっており、全規模・全産業では同48.7%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期

- 製造業では前年比増減率23.9%の増益見込み、非製造業では同3.8%の増益見込みとなっており、全規模では同6.2%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期

- 先行きについては、6年10~12月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、持家、分譲住宅は前年を下回っているものの、貸家は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事請負金額をみると、前年を上回っている。

県内経済情勢 (令和6年10月判断)

(資料)

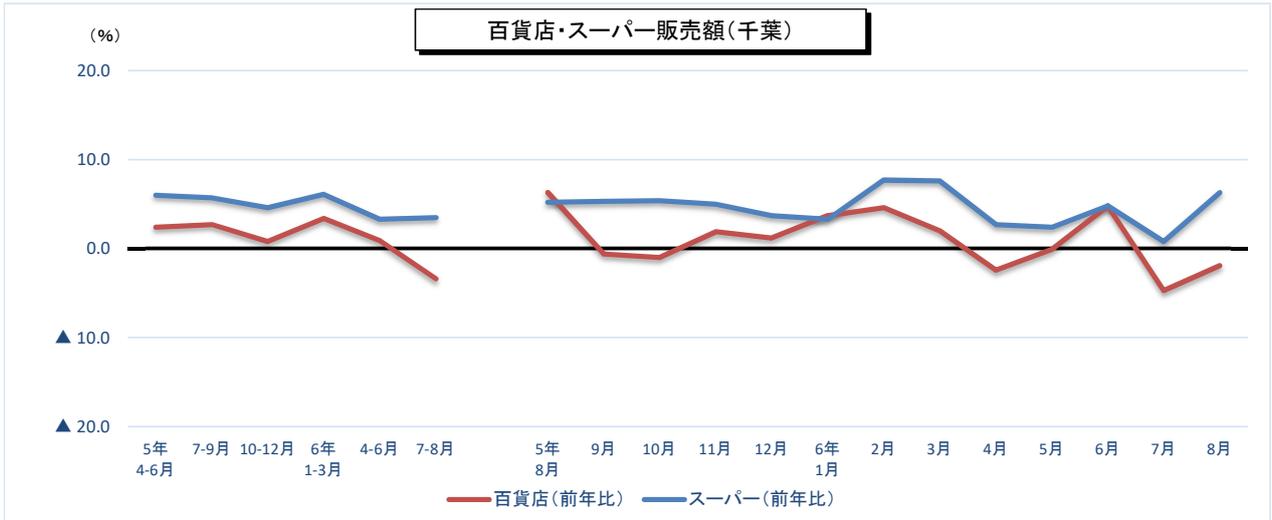
目次	(頁)
1. 個人消費	1
2. 生産活動	2
3. 雇用情勢	3
4. 設備投資	4
5. 企業収益	4
6. 企業の景況感	4
7. 住宅建設	5
8. 公共事業	5

令和6年11月7日

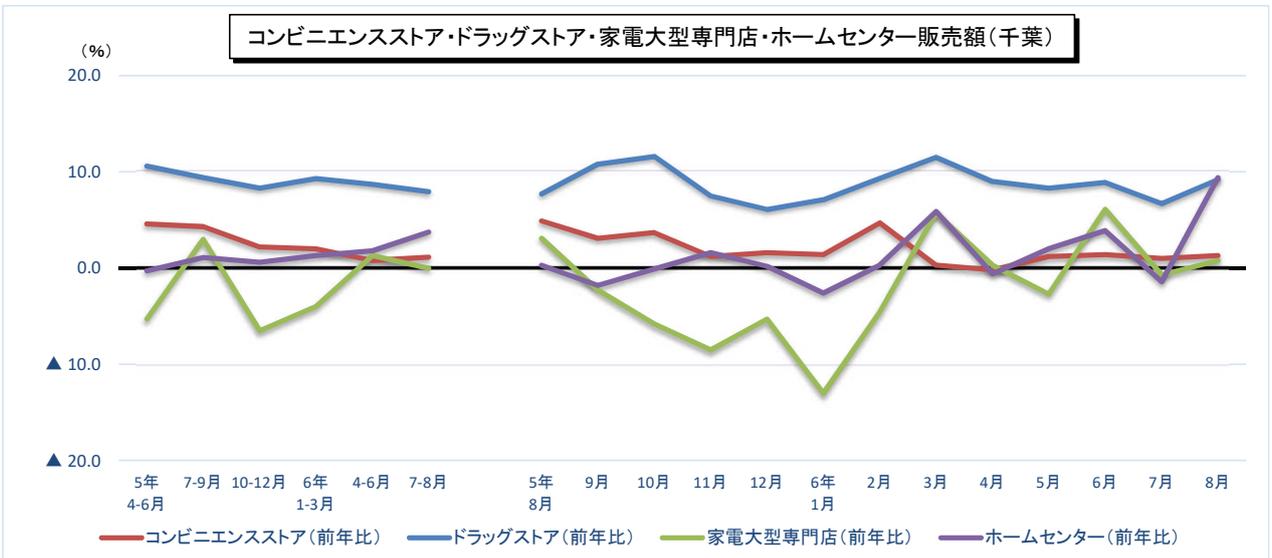
財務省関東財務局
千葉財務事務所

1. 個人消費

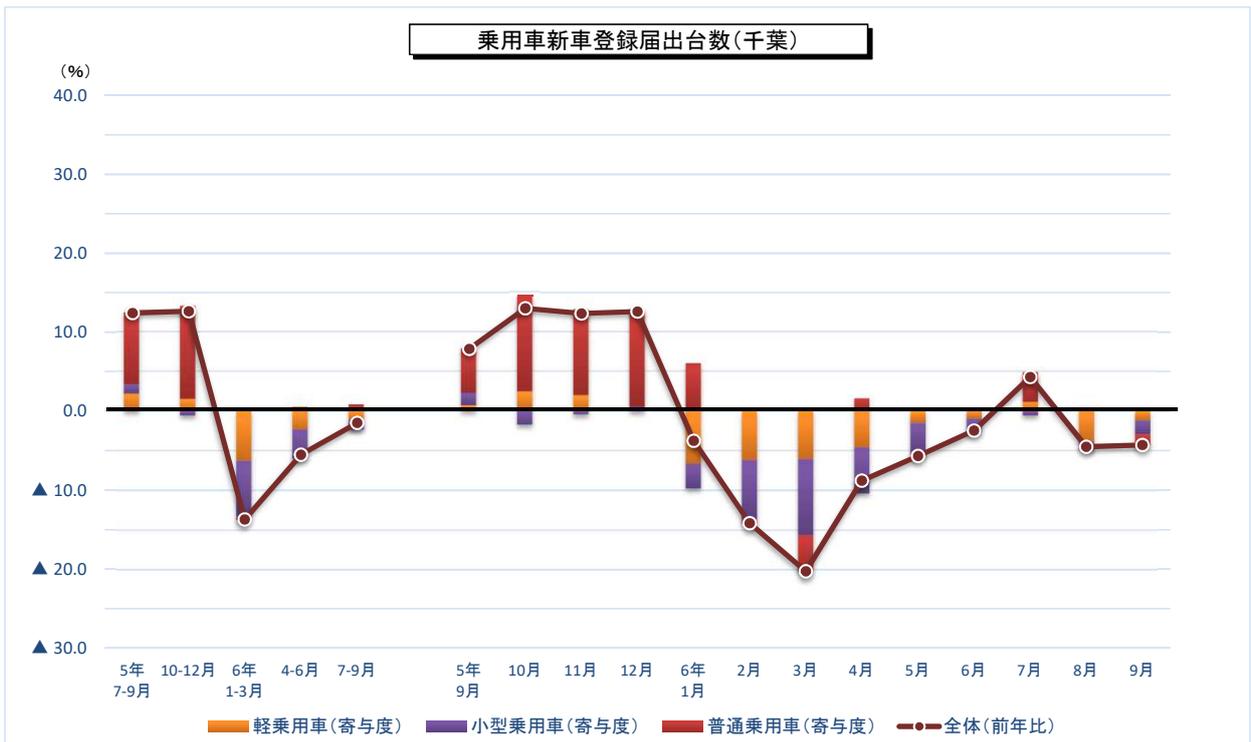
一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある



[経済産業省]



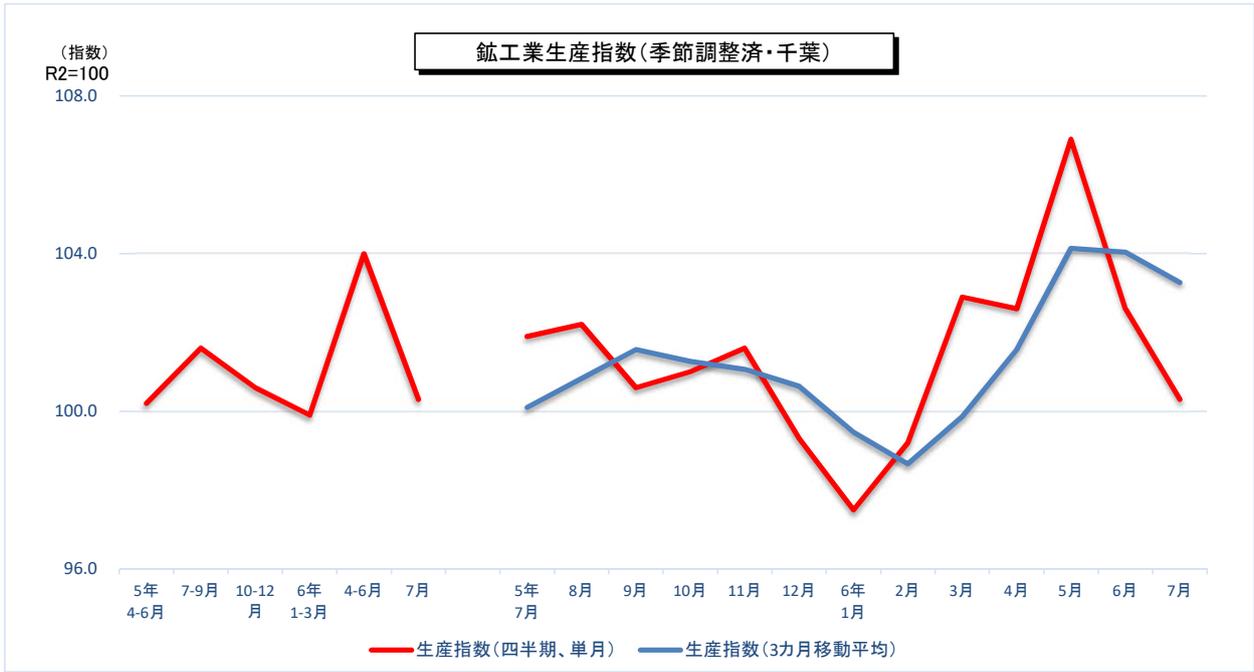
[経済産業省]



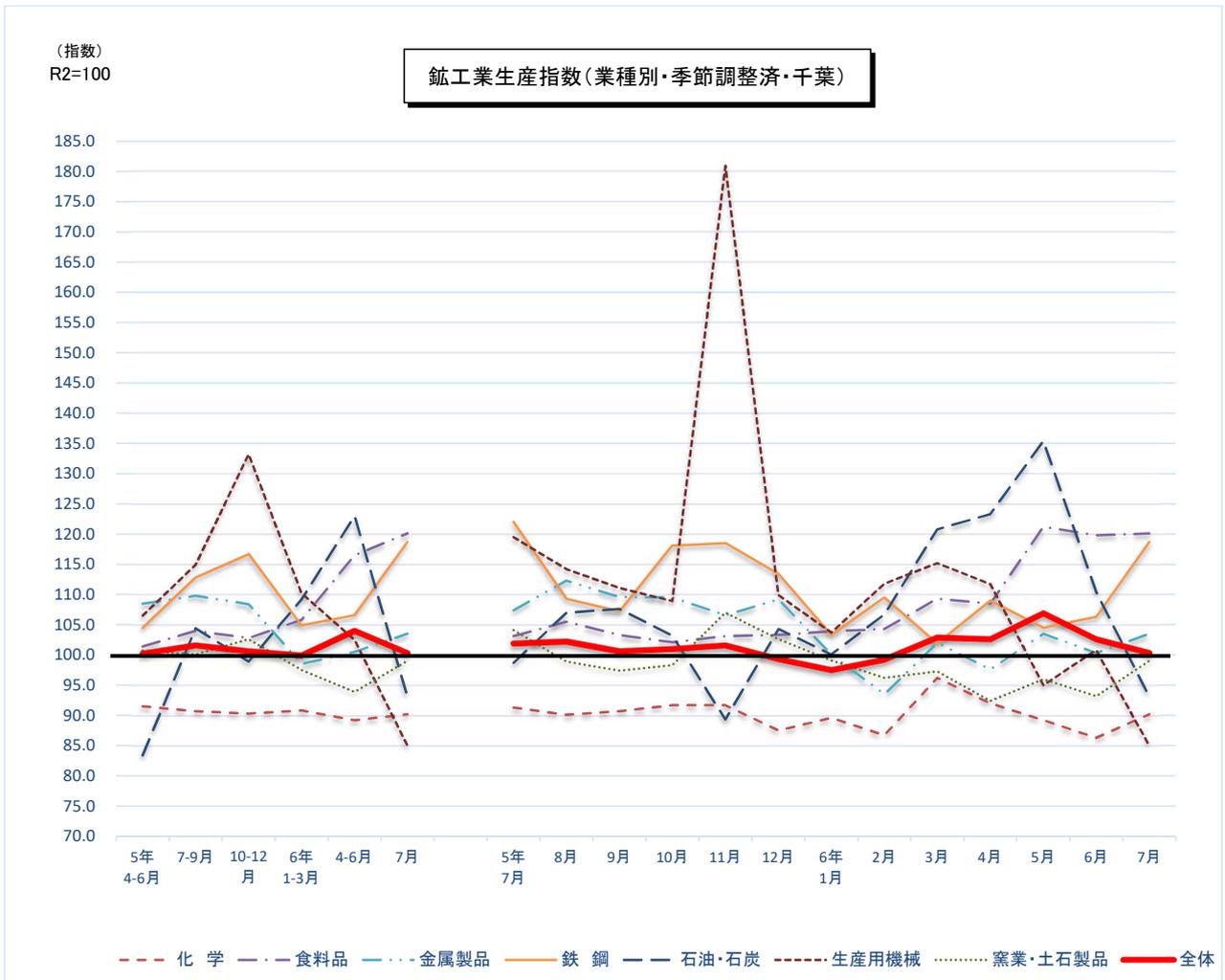
[日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会]

2. 生産活動

持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている



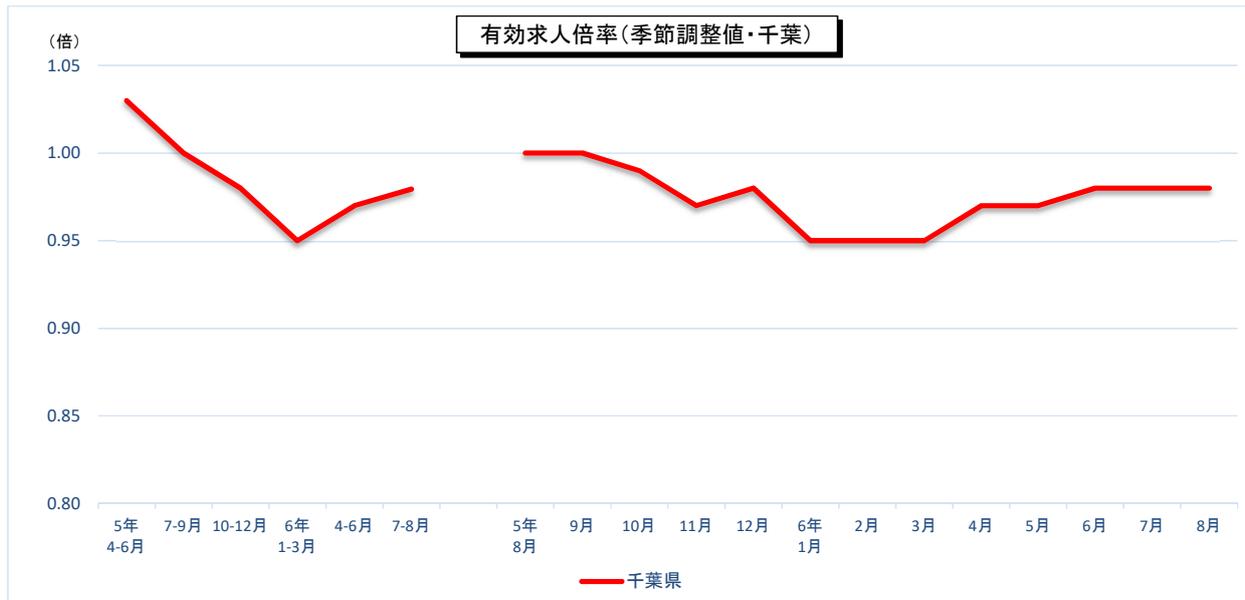
[千葉県]



[千葉県]

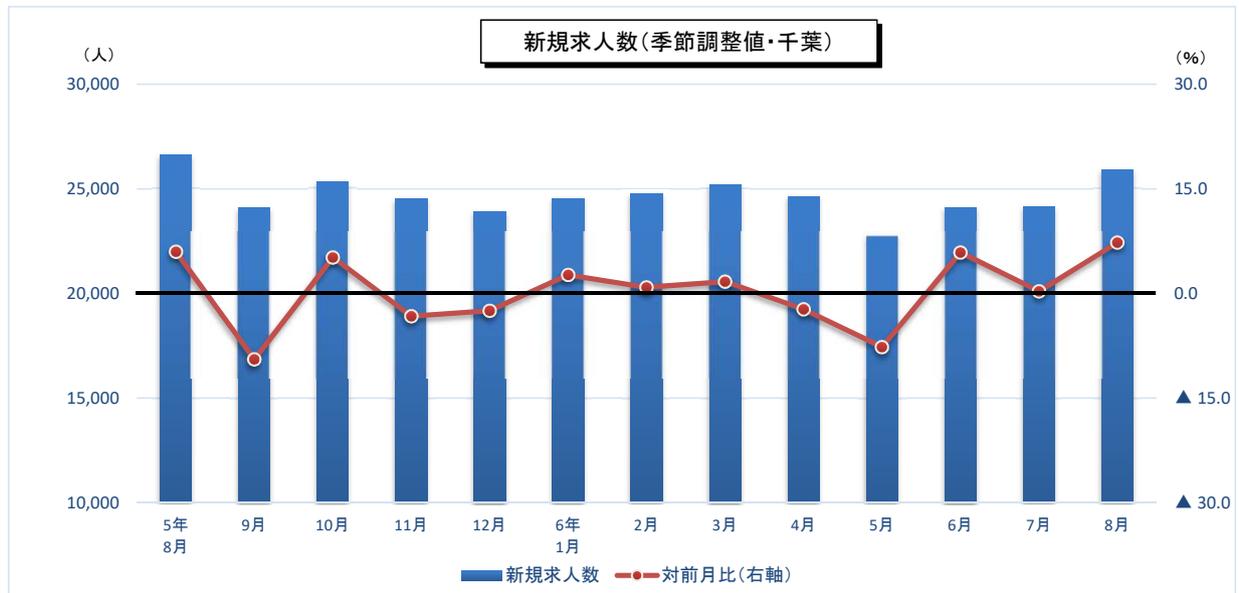
3. 雇用情勢

緩やかに持ち直しつつある

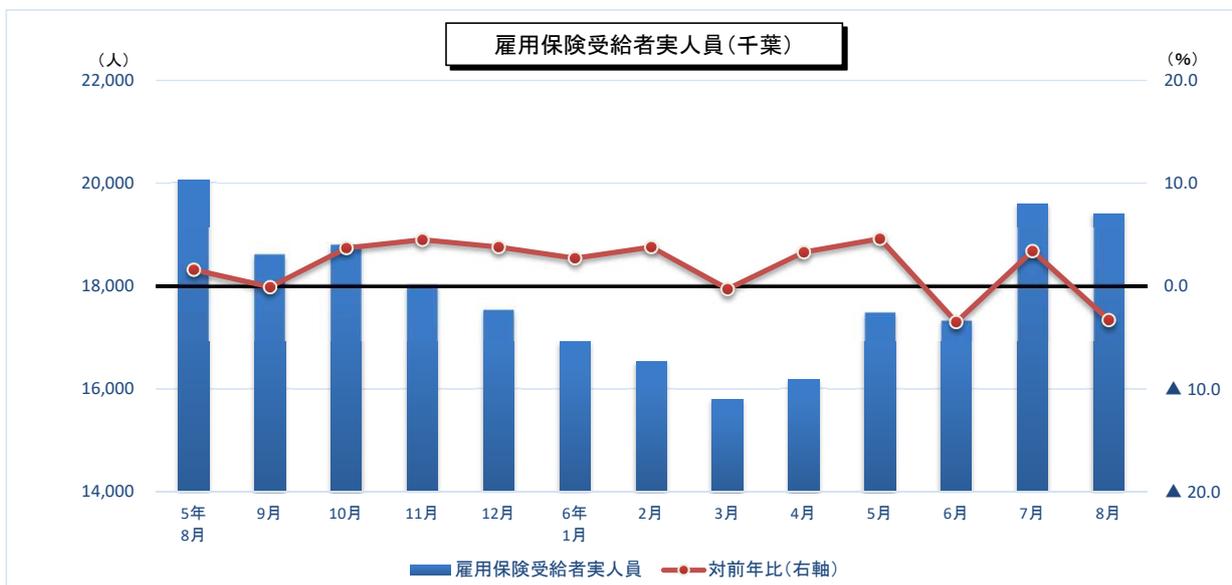


(注)四半期は期中平均である。

[千葉労働局]



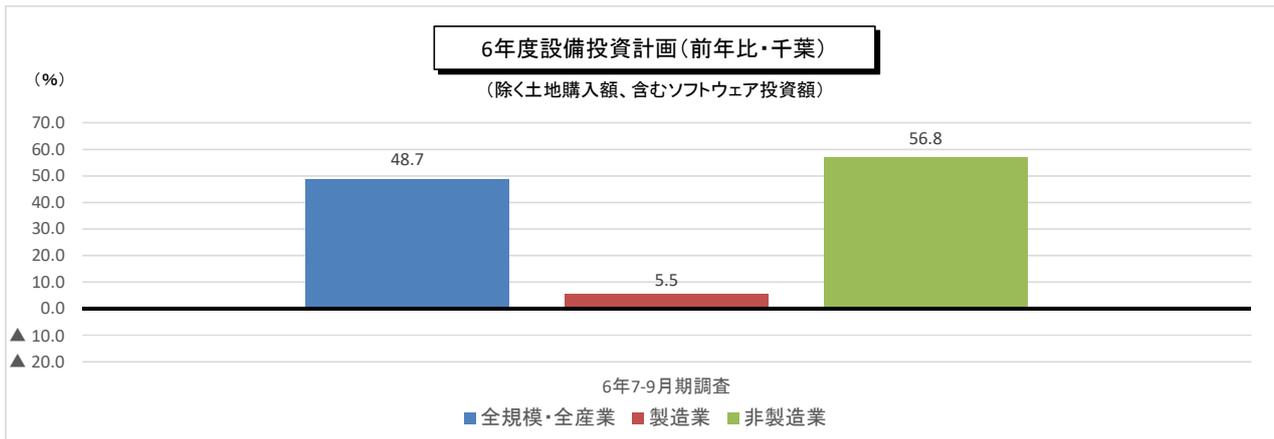
[千葉労働局]



[千葉労働局]

4. 設備投資

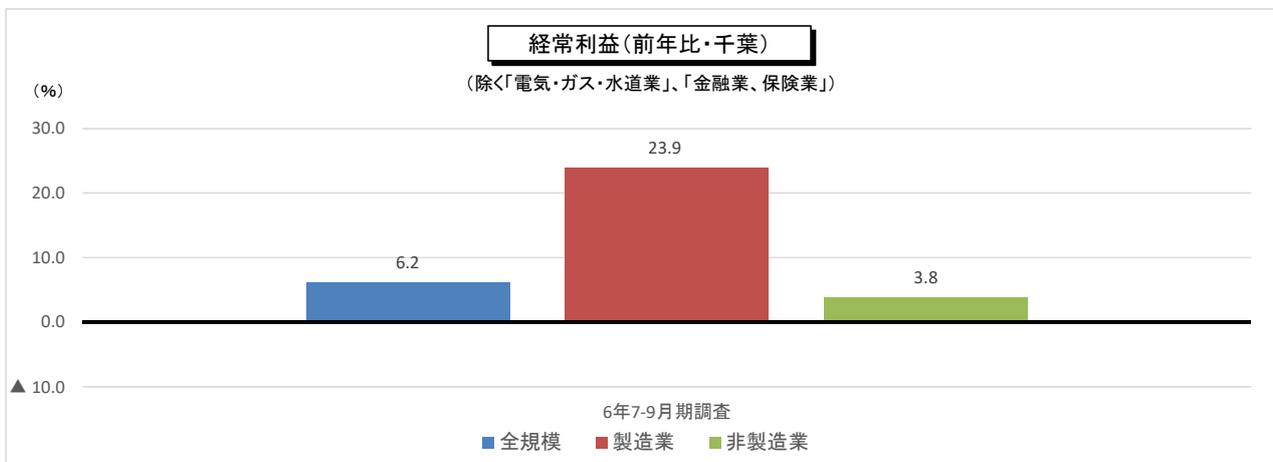
6年度は増加見込みとなっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益

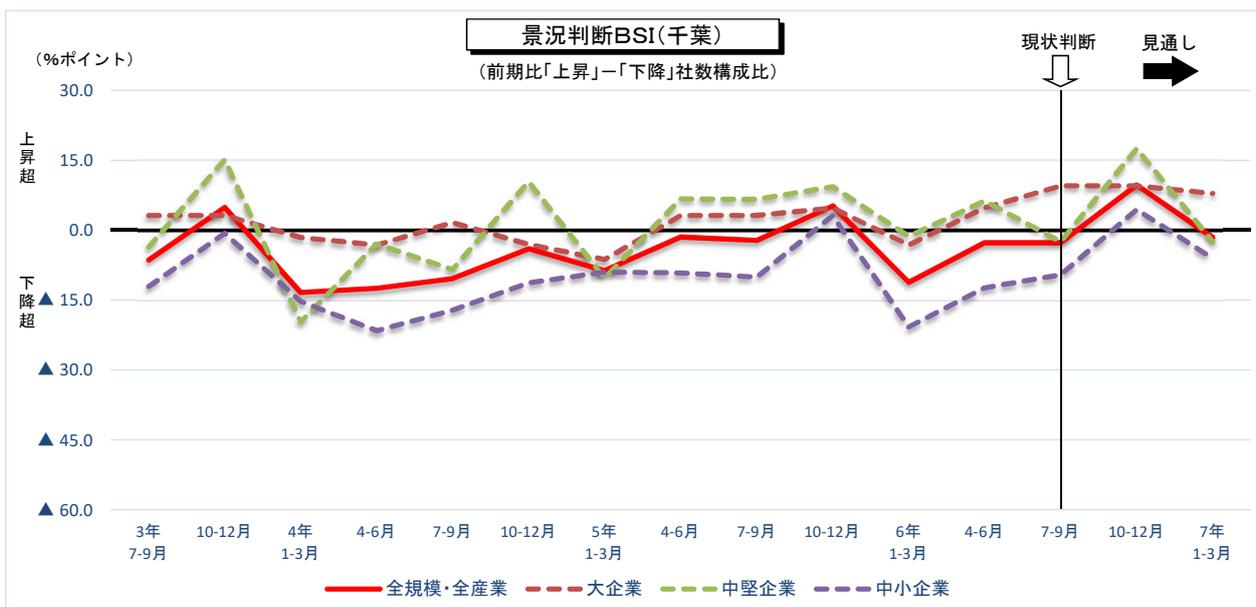
6年度は増益見込みとなっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

6. 企業の景況感

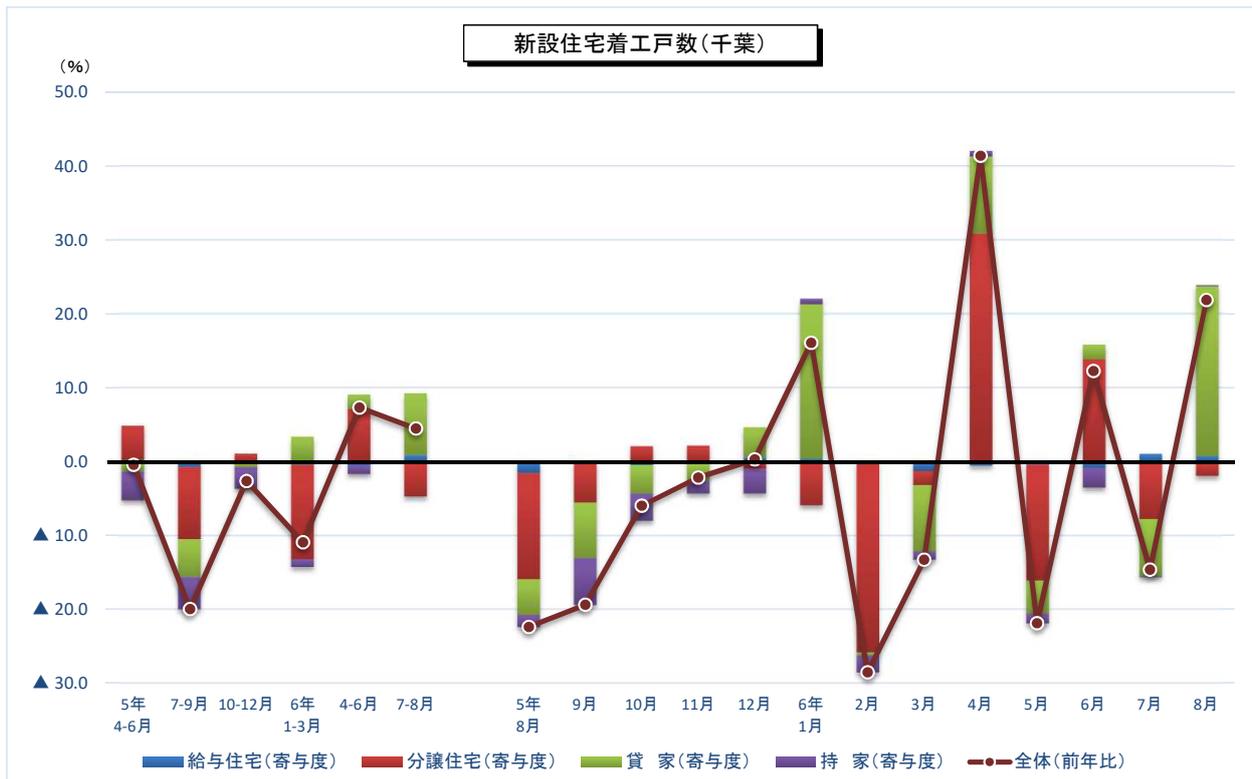
「下降」超となっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

7. 住宅建設

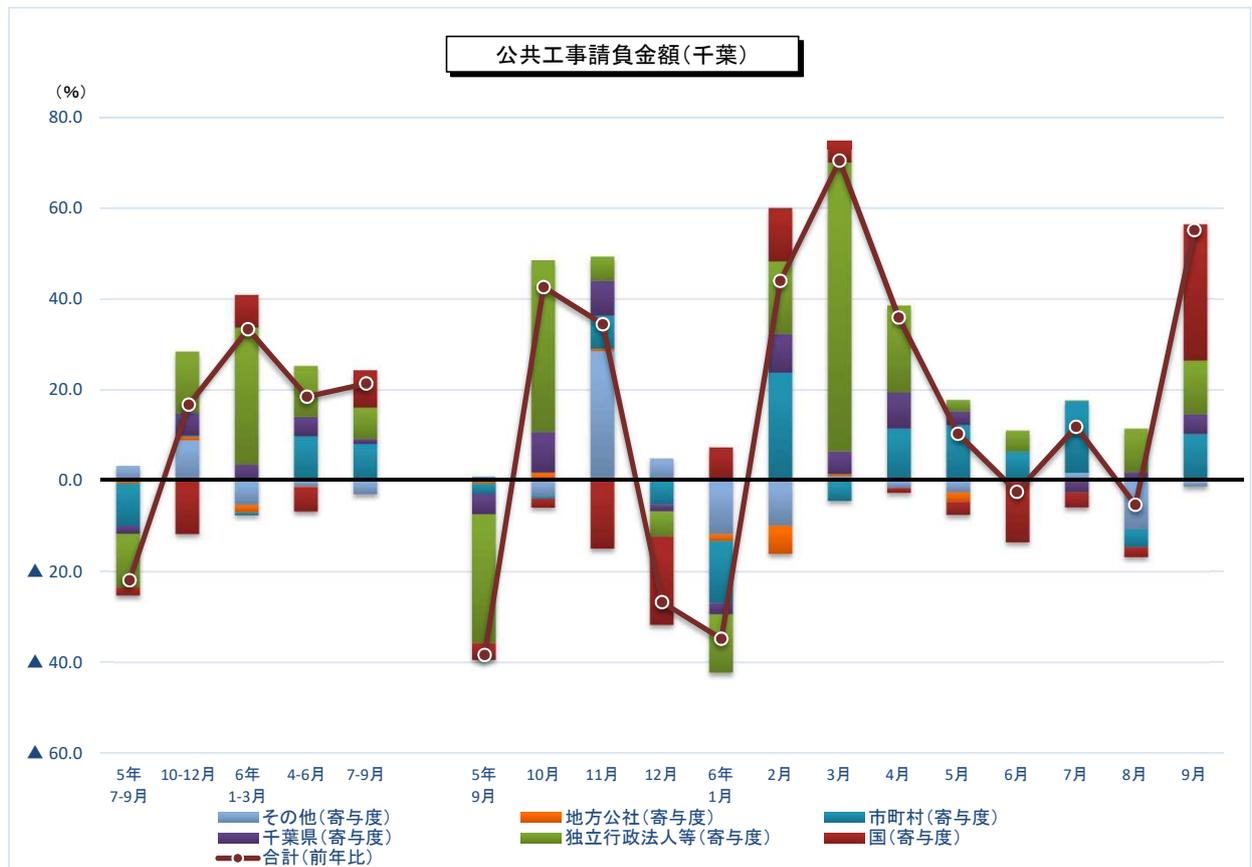
前年を上回っている



[国土交通省]

8. 公共事業

前年を上回っている



[東日本建設業保証株式会社他]